

Title	イギリス文学・文化におけるD・H・ロレンスの位置再考：宗教性と主体性
Sub Title	Reconsidering the place of D.H. Lawrence in British literature and culture, with special reference to the questions of spirituality and subjectivity.
Author	武藤, 浩史(Muto, Hiroshi)
Publisher	慶應義塾大学
Publication year	2020
Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2019. )
JaLC DOI	
Abstract	<p>1スピリチュアリティ / マインドフルネス関連、2 英国宗教史とダーウィン以降の進化論関連の歴史、3 20世紀英国カトリック文学・文化関連、4 英国における主体性をめぐる歴史、5 D・H・ロレンス他モダニスト作家関連の5つの領域に分けてリ文学書、研究書の購入・精読を通したりサーチを主たる活動として続行した。1スピリチュアリティ関連では、4 英国における主体性の歴史とも関係してくるのだが、チャールズ・テイラーの主著A Secular Ageの研究会を立ち上げ、上智大学、早稲田大学、英国セントアンドリュース大学の研究者とともに、この大著の精読を始めたところである。2については、ダーウィンのいくつかの主著の精査と並行して、彼の論敵であったサミュエル・バトラーの小説の翻訳の刊行とその解題執筆を通して、宗教性という観点から19世紀後半の進化論をめぐる問題を考察し、その成果を世に問う準備を進めている。3の英国カトリック文学、4の主体性の問題については、5のモダニスト作家の問題とあわせてリサーチ中で、ジョイス、T・S・エリオットといった中心的な作家からチェスタトンのような大衆作家まで、また、ミュリエル・スパークのような戦後作家も視野に入れてリサーチを続けている。その成果については、20年7月に予定される関東英文学会大会でのシンポジウム「英文学と老い」で発表を予定している。中心となるD・H・ロレンスについては、残念ながら新型コロナウイルスの影響で中止となったD・H・ロレンス国際学会で発表予定だったが、ロレンスと19世紀後半をつなげる英国におけるスピリチュアリティの系譜についてのリサーチが進んでおり、その成果の一部は、2019年末に刊行された『イギリス文学と映画』という共同論集に発表された。</p> <p>I pursued my research further in the following five interrelated fields: 1. spirituality/mindfulness; 2. histories of religion in the U. K. and of evolutionary theories and their impact upon the British society since the latter half of the 19th century; 3. the Catholic literature and culture in the 20th century; 4. history of subjectivities in Britain; 5. D. H. Lawrence and other Modernist writers. My related publications include: 'D. H. Lawrence and Film', a contribution to the collection, British Literature and Film (Sanshusha), published in October 2019.</p>
Notes	
Genre	Research Paper
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2019000007-20190027">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2019000007-20190027</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

研究代表者	所属	法学部	職名	教授	補助額	200 (B) 千円
	氏名	武藤 浩史	氏名 (英語)	Hiroshi MUTO		
研究課題 (日本語)						
イギリス文学・文化におけるD・H・ロレンスの位置再考——宗教性と主体性						
研究課題 (英訳)						
Reconsidering the place of D.H.Lawrence in British literature and culture, with special reference to the questions of spirituality and subjectivity.						
1. 研究成果実績の概要						
<p>1スピリチュアリティ／マインドフルネス関連、2英国宗教史とダーウィン以降の進化論関連の歴史、3 20世紀英国カトリック文学・文化関連、4英国における主体性をめぐる歴史、5D・H・ロレンス他モダニスト作家関連の5つの領域に分けてリ文学書、研究書の購入・精読を通じたリサーチを主たる活動として続行した。1スピリチュアリティ関連では、4英国における主体性の歴史とも関係してくるのだが、チャールズ・テイラーの主著 A Secular Age の研究会を立ち上げ、上智大学、早稲田大学、英国セントアンドリュース大学の研究者とともに、この大著の精読を始めたところである。2については、ダーウィンのいくつかの主著の精査と並行して、彼の論敵であったサミュエル・バトラーの小説の翻訳の刊行とその解題執筆を通して、宗教性という観点から19世紀後半の進化論をめぐる問題を考察し、その成果を世に問う準備を進めている。3の英国カトリック文学、4の主体性の問題については、5のモダニスト作家の問題とあわせてリサーチ中で、ジョイス、T・S・エリオットといった中心的な作家からチェスタンのような大衆作家まで、また、ミュリエル・スパークのような戦後作家も視野に入れてリサーチを続けている。その成果については、20年7月に予定される関東英文学会大会でのシンポジウム「英文学と老い」で発表を予定している。中心となるD・H・ロレンスについては、残念ながら新型コロナウイルスの影響で中止となったD・H・ロレンス国際学会で発表予定だったが、ロレンスと19世紀後半をつなげる英国におけるスピリチュアリティの系譜についてのリサーチが進んでおり、その成果の一部は、2019年末に刊行された『イギリス文学と映画』という共同論集に発表された。</p>						
2. 研究成果実績の概要 (英訳)						
<p>I pursued my research further in the following five interrelated fields: 1. spirituality/mindfulness; 2. histories of religion in the U. K. and of evolutionary theories and their impact upon the British society since the latter half of the 19th century; 3. the Catholic literature and culture in the 20th century; 4. history of subjectivities in Britain; 5. D. H. Lawrence and other Modernist writers. My related publications include: 'D. H. Lawrence and Film', a contribution to the collection, British Literature and Film (Sanshusha), published in October 2019.</p>						
3. 本研究課題に関する発表						
発表者氏名 (著者・講演者)	発表課題名 (著書名・演題)	発表学術誌名 (著書発行所・講演学会)	学術誌発行年月 (著書発行年月・講演年月)			
武藤浩史	D・H・ロレンスと映画	イギリス文学と映画、三修社	2019年10月			